住民投票で「大阪市解体ノー」、橋下・維新「退場」の審判必ず

大阪市を廃止し、5つの特別区に分割することの賛否を問う住民投票(5月17日投票)が4月27日告示されました。「大阪市解体ノー」へ党派を超えた共同を広げるために設立された政治団体「民意の声」の代表として活動する浅野秀弥さんと、日本共産党大阪市議団の山中智子幹事長が、橋下・維新政治の7年間をどうみるのか、「大阪都」構想の問題点について語り合い、住民投票で必ず勝利し、維新政治に「退場」の審判を下そうとエールを交換しました。

橋下・維新政治の7年は何をもたらしたか

浅野　私は共産党の議員さんと対談するのは初めてです。革新懇ですか、共産党の志位和夫委員長と一緒にポスターに載りましたが、これも思いもよらないことでした(笑い)。

山中　ありがとうございます。初めて尽くし、ですね。浅野さんとは、「民意の声」を立ち上げようとされていたときに、自民党の柳本顕大阪市議の紹介でお目にかかりました。

浅野　ええ。それですぐ、「大阪市がなくなるで!えらいこっちゃの会」の方々と一緒に3月28日に集会とパレードに取り組みました。

――住民投票が5月17日に迫っています。街頭で市民の声を聞くと、「橋下さんやから改革してくれる」という期待がまだまだあります。「改革者」のイメージが先行して、それが「大阪都」構想への賛成にもつながっている面もあります。しかし、橋下氏が知事になってからの7年間、大阪の人々に何をもたらしてきたのか、あらためて考えないといけないと思います。

■分断をあおって

山中　そうですね。私の娘はいま大学生ですが、橋下さんが政治の世界に出てきたときは、別に何も思っていなかったようです。「良いとも悪いとも思わなかった」と言っています。しかし私学助成削減の問題で「大阪の高校生たちに笑顔をくださいの会」と意見交換したときに、橋下氏が「日本は自己責任が原則。それが嫌なら国を出るしかない」と言い放って、女子高校生を泣かせたことがありましたね。娘は「あのときから、絶対嫌いになった」と言います。

彼はずっと、住民の中に分断を持ち込んできました。「頑張れる人」と「頑張れない人」、「お金のある人」と「お金のない人」、「公務員」と「民間」というふうに。そしてなんでも「競争だ」と。それがあたかも「正義」であるかのような顔をして言い続けてきました。大阪の人たちは、何かそれを信じ込んで、本当にものごとを対立的にとらえて、「あの人が『いい目』を見ているから、自分はこんなにしんどいのか」と考えてしまったり。

具体的な政策もさることながら、全体として「自分さえよければいい」「他人に勝てばいい」「強い者は勝って当たり前」という風潮をあおってきたのが橋下氏。彼が政治家として大阪に居続けると、人々の心が壊れていってしまうのではないかと思います。

浅野　山中さんがおっしゃったように、彼は「自分」が基準なのです。彼自身は人格的に、人を思いやる心とか、仁・義・礼・節といった日本人が育んできた大切なものが、ほとんど欠けている。成長期に、人に謝ることに対する反抗とか、自分の勝手な判断が植え付けられたのでしょう。自分以外の人間がどう思っているかということは、彼にはどうでもいいことなのです。

山中　この間の「特別区設置協定書」の説明会で「僕の説明会だ。反対意見を聞くのではない」と言っているのも象徴的ですね。

浅野　つまり「僕がこう思っているから、みんなもこう思えよ」という押し付けです。それが彼の政治のやり方に非常に出ているわけです。

■職員には恫喝で

山中　橋下氏は、府や大阪市の職員や住民に対して恫喝から入ってきました。知事になったときは「皆さんは破産会社の従業員だ」という言い方で始まりました。大阪市長に就任した時、中之島の市役所に出勤する職員にマスコミが「どう思いますか」とインタビューしたのです。それで、「(橋下氏の考えと)私の思いとは違う」と答えたのは誰か、探し出してわび状を書かせました。前市長の平松邦夫さんの側近だった幹部を全員更迭しました。そして「思想調査」アンケート、職員基本条例、「市長の顔を見て仕事をしろ」だの、徹底して、「自分に従え」というメッセージをずっと送ってきました。

そうして自分のやり方が職員の間に通りやすい環境をつくって、市民の暮らしをぎりぎりのところで支えてきたサービスを次々とやめていきました。敬老パスの有料化、上下水道減免制度の廃止、新婚家賃補助制度の廃止、住吉市民病院の廃止などです。

それをやる代わりに、「子どもと教育に重点的にお金を投資した」と言いますが、はっきり言って、市長の道楽みたいなものばかりです。学校でタブレットをすべての子どもに配るとか、塾代助成とか、教育の世界では必ずしも多くの人がうなずいていないようなものにお金を使う。そして、暮らしを支えている基本的な制度をどんどん悪くしてきました。

■カット、カット

浅野　知事の時代から彼が何をやってきたかというと、カット、カット、カットですよ。そういう橋下氏をなんで多くの人が支持しているのかというと、いままでの自民党政治が大きな改革をやってこなかったという問題はあるのでしょう。しかし、行政にはやっていいカットと、やってはいけないカットがあるのです。大阪府警なんて、給与カットしたために、警察官のなり手がない。「子どもたちの教育が大事」とか彼は言いますが、私は言いたい。「教育せんとあかんのは、お前やろ」(笑い)。

それと彼は創意工夫というものを一切しません。そこにある目の前の現実を見るということだけしかしない。いまも「大阪都」構想に賛成か、反対かということでしょ。WTCへの府庁移転、八尾空港でオスプレイを受け入れるとか八尾市長も知らないところで言う。そんな人間、よく弁護士をやっていたと思います。

確かに口はうまいので、すっと人々の心の中に入っていく。だから彼の詭弁や責任感のなさを知らず、多くの方々は信用してしまうのです。だいたい、彼は自分のことを必ず「僕」と言うでしょ。

山中　そうなのですよ。あれ、誰も注意しませんよね。

浅野　松井知事でさえ「僕が」と言っています。いい年をして、市長や知事が「僕は、僕は」。それだけ意識が低いのでしょう。「私たちが」という人間と、「僕は」という人間の違いは実は非常に大きいのです。「僕は、僕は」と言って要するに自己主張をやっている。ただ、自己主張しか行わない者は、いずれみんなから見放されるでしょう。最後は自分自身で落ち込んでしまうのです。

山中　民営化もかなり乱暴に進めてきました。市議会では野党の反対で地下鉄・市バスの民営化やごみ収集の民営化は止めていますが、そんなライフラインに関わるものまで、とにかく何でも民間がいいという。ここでも「官か、民か」という対立を持ち込むのです。

■公が責任持って

橋下氏が市長に就任して最初の代表質問(2012年1月)で私は民営化問題を取り上げて追及しました。橋下氏は「民間事業者がやってもいいじゃないですか」「公務員しかできないなんてまったく思っていない」「民間人蔑視はやめていただきたい」などと言い募りました。私たちがまるで民間を敵視しているかのようにすり替えて攻撃したわけです。市立幼稚園も、公立でやっていかなければ、支援の必要な子どもが行き場を失ってしまうと保護者や私立を含めた幼稚園関係者が訴えても、「なんで民間を否定するのか」と分断を持ち込んでくる。民営化がバラ色みたいなことを植え付けています。

浅野　民営化問題で一番大事なことは、山中さんもおっしゃったように、ライフラインの部分。水道を民営化したとして、そこの社員が「俺には気に入らないことがある」と水に毒を入れたりすると終わりでしょ。ライフラインの部分を公が責任を持って行うのが自治であり、行政。彼はそこを完全に取り違えています。民営化して、市職員が民間企業の社員になって、そこで首を切られたらどうするのか。相手のことを全然考えていません。「自分本位」の一言に尽きますよ。

山中　ほんとにそうですね。

■市政を私物化し

浅野　一方で特別顧問・特別参与とかいう制度をつくって、上山信一氏(慶応大学教授)、堺屋太一氏とかいっとき90人ほどいて、会議にちょっと出席しただけで手当てを5万円出すとか。上山氏は維新の会の支持者で、庶民の目線でなく、「橋下目線」で仕事をしている。だったら維新の会が手当てを払ったらいいじゃないですか。

そんなに民営化がいいなら、SP(要人警護の警察官)も橋下氏は自分のお金でつけたらいい。そうはせずに、彼は警備で守られているから何でも言えるとでも思っているのではないですか。

山中　市長になったとたん、もともと私設秘書だった人物を特別秘書にして税金から給料を出すように変えました。彼が何をしているかは誰も知らないし、出勤簿もありません。あれだけ民間、民間と言いながら、自分の秘書は税金で雇う。私物化ですよ。

浅野　そうそう。

山中　その秘書のファミリーから「橋下徹後援会」は、たくさん寄付をもらっています。こんなことで、どうして「身を切る改革」と言えるのでしょうか。

――浅野さんは「私が『橋下徹』をつくった。引っ張り出した以上は、責任を持って退場させる」とおっしゃって、「民意の声」の活動を始められましたね。

浅野　ええ。2008年の知事選で「2万パーセント出ない」という橋下氏を8時間かけて説得しました。彼は初めて会ったときから、とにかくよくしゃべりましたよ。私は当時の太田房江知事では駄目だ、なんとか辞めさせて誰かにやらせたかったのです。そこに、30代のかわいらしい男が現れた。お辞儀の角度は90度ですよ。テレビに出ているバリバリのときです。そしてパソコンを開いて「大阪府の赤字はこうこうで」としゃべりまくるので、一瞬「これは」と思ったのです。

知事選は自民党、公明党が橋下氏を支援し、私は勝手連ということで選対に入っていました。でも、選挙やっている中で、彼とずいぶんやり合いましたよ。

■コロッと変えて

山中　やり合う?

浅野　ええ。彼は知事選に出る前と、知事候補になった後とでは態度がコロッと違ったのです。それに私は、「この男は駄目だ」と思いました。

山中　なるほど。そういうことなのですね。

浅野　私は選挙が終わるまでは責任を果たすつもりでした。だから彼にずいぶん説教しましたよ。「お前みたいなもん、あかんぞ!」とか。でも彼は勝手。決まるまでは頭を下げるが、決まったら勝手です。「大阪都」構想も決まるまでは「皆さんお願いします」でいく。

山中　「究極の民主主義」とか「決めるのは皆さんです」とか。

浅野　でも、一たびこれが通ってしまうと、やりたい放題むちゃくちゃの、「大阪解体事業」をやってしまうのは目に見えています。こんなことは絶対に許せない。

山中　決まったらあとは、「決めたのは、あなたたちでしょ」と。

浅野　絶対言うでしょうね。大阪市を解体して問題が起きても、自分で責任を取らない。知事に戻ってやり抜くというのでもない。自分たちの利権だけで、それでやめていくのではないかと思います。だから絶対に、「大阪都」構想を通してはいけない。彼自身を政界から放り出さないといけないのです。

変えるべきは制度でなく中身

山中智子さん

やまなか・ともこ　日本共産党大阪市議会議員(5期・大阪市城東区選出)、議員団幹事長。大阪府・大阪市特別区設置協議会(法定協)委員として大阪市を廃止・解体する「大阪都」構想の問題点を一貫して追及するとともに、市議会で橋下・維新政治と正面から対決。野党4会派の共同に努める。

絶対に通せない「大阪都」構想

■税収わずか¼に

浅野　私は大阪市を廃止・解体する必要は全然ないと思っています。大阪には「天王寺」や「住吉」といった、由緒ある名前もあるじゃないですか。それをなんで、5つに分けないといけないのか。人口270万人の大阪市が大きすぎて、どうしても分けたいというなら、90万人の政令市を3つつくったほうが、まだましというものです。

特別区の自主財源は住民税とたばこ税と軽自動車税の3つでしょ。いまの大阪市の税収の4分の1しか特別区に残らないのです。東京は裕福だからそれでも都区制度がなんとか成り立っているが、大阪でやったら駄目です。特別区議会の議員にしても東京は23区で約900人います。大阪は86人でやれという。むちゃです。いま特別区設置のコストとされている680億円。そんなものでは済まないと思いますよ。2千億円以上は必要と思います。

山中　財政シミュレーションはすごく低く見積もっていますから。何百億円もかけて3つの特別区で新庁舎をつくるといいますが、実際に土地があるのか、いくらなのか、何も分かっていないのですから。

(7面に続く)

大阪壊しでなく本当の改革を

浅野秀弥さん

あさの・ひでや　一般政治団体「民意の声」代表　株式会社フリーマーケット社(大阪市西区)代表取締役社長　日本フリーマーケット協会理事長　1979年に日本初のフリーマーケットを開催。国際花と緑の博覧会など全国各地のイベントをプロデュース。人材育成の一般社団法人、2法人の代表理事を務める。

(6面から続く)

山中　学校も「大阪市立〇〇小学校」から「東区立〇〇小学校」とかに全部看板を変えないといけないし、消防も「大阪市消防」から「大阪府消防」に全部変えないといけない。ほんとうに無駄なお金です。

■痛め付けられる

浅野　私たち民間もそうですよ。このオフィスは「大阪市西区」ですが、うちの会社名の入った封筒や用紙、私やスタッフの名刺も何から何まで、「大阪府中央区」に作り替えないといけません。零細企業なんて、そんなことに100万円も出したら、つぶれるところもあります。大阪市の分割による住所の変更だけで、大企業から零細企業まで合わせて1兆数千億円かかるともいわれています。

山中　大阪を支えているのは庶民、そして中小企業です。5つの特別区に分けられたら、大都市局のシミュレーションでも、最初の5年間は1071億円の収支不足になります。どう埋め合わせるのかというと、未利用地を売り払う、市民が築いてきた基金も取り崩す、まさにたこが自分の足を食べるようなものです。それでも赤字になるので府から貸し付けを受ける。しかもその原資は府に取り上げられた財政調整基金です。住民サービスをいくら切っても赤字になるというシミュレーションが最初からあるのです。それも大変甘い試算です。これでは住民は痛め付けられるばかりです。

浅野　大阪市を解体すれば大阪は30年以上落ち込んで、関西全域も落ち込んで、再構築まで30~40年はかかるでしょう。

山中　2017年4月1日から特別区になっても、新しい庁舎がすぐできるわけではありません。区長と区議会が建設を決めるので、できるとしても5年かかるといいます。その間どこで区議会をやるのか、どこに区長がいるのか、どこが本庁なのか。結局、いまの中之島の本庁舎でやるしかないという話です。大混乱ですよ。市民はどれだけの迷惑や損失を被らないといけないのか、計り知れません。絶対やっちゃいけないと思います。

■政策の間違いだ

――世論調査で「大阪都」構想への賛成理由で一番多いのは「二重行政の解消」です。街頭で有権者の声を聞いても、同じ答えが多いです。

浅野　「二重行政」というのは橋下氏が勝手に言っているだけで、別に二重でもなんでもない。いま知事は大阪市長の〝子分〟ですよね(笑い)。もし「二重行政」があるなら、いまのうちにいくらでも直せばいい。

山中　結局、「二重行政」といわれるものはないということが分かったわけです。松井知事が「4千億円浮く」と言いましたが、この間議論してみると、せいぜい1億円程度しか浮かない。大学や病院、図書館が府と市にあろうが、やっぱりみんな使っていて、必要なものだから、いま維新の会は逆に「なくさない」と言っています。いまはWTCビル(現大阪府咲洲庁舎)とゲートタワービルしか言うことはなくなっているのです。

「府民の声」と「えらいこっちゃの会」の御堂筋パレードで先頭に立つ浅野さん(サングラスの男性)=3月28日、大阪市北区内

浅野　あれは「二重行政」ではなく、バブル時代の負の遺産ですよ。

山中　そうです。開発優先の政策の間違いで、何も大阪府と大阪市があったからやったわけではありません。「一人の司令官」になっている東京都でも、臨海副都心開発で大失敗しているわけです。それで大阪市を解体して権限と財源を府に吸い上げて、「一人の司令官」で何をやるかと言えば、カジノですから。

浅野　いま世界各地のカジノは斜陽ですよ。

山中　衰退が始まっているのです。前に記者会見でそのことを聞かれたら橋下氏は、「大阪でやってみないと分からない」と言っていました。夢洲にカジノを持ってきて、そのために新しい鉄道や橋をつくって、「だめでした」では、それこそすごい負の遺産です。

浅野　「すんまへん」ではすみませんよ。

■都市は〝生き物〟

山中　1889年(明治22年)から130年近く続いてきた大阪市です。浅野さんのオフィスがあるこの西区のように企業が集まっている地域もあれば、私の地元の城東区はほとんど「住」の街です。いろんなものがあって一つの「大阪市」としてやってきたのです。

人間の体も頭、体、手足、それぞれに機能があるものを切断したら死んでしまうでしょ。私は都市も〝生き物〟だと思うのです。いままでの市政にいろいろ不満があれば、治療していけばいい。みんなで相談していちばんいい治療法を選んで、早く治せばいいのに、「いや、切断しかないですよ」とやったらどうなりますか。

橋下市長になってから3年半余り、「大阪都」構想の準備で制度をいじることばかりやってきて、大阪市の中身を良くすることをまともにやっていないでしょ。5月17日に「大阪市解体」が決まれば、この先2年間、ずっと大阪市を壊す作業だけをしないといけない。市民にとって大損害の5年、6年になってしまいます。

浅野　私はもともとイベントのプロデューサーをやってきました。何事もまず「基本構想」があって、次に「基本計画」があり、そして「実施計画」がある。それがものごとの進め方です。ところが橋下氏はいきなり実施計画から始めて、「後付け」で「あれをやる」「これをやる」とやっているだけなのです。

■「牛のよだれ」で

大阪市は関西電力の筆頭株主で、市の財政に配当が何十億円と入っている。彼はその関電株を売ろうとしましたね。あんなもの、1回売ったら終わりですよ。私たちビジネスをやっている人間は「牛のよだれ」ということを言うのです。商売は牛の唾液のように、たらたらと流れ続けるようでなくてはいけない。いくら牛1頭もらっても、それを食べてしまったらあかんのです。

山中　それがまっとうな商売の哲学ですね。

浅野　そうです。橋下氏は「牛1頭、食いますよ」と叫ぶことで支持を得ているわけですが、そういうことは絶対に行政がやってはいけないことです。

山中　おっしゃるとおりです。博打なら「一発勝負」でいいけれど、行政、たとえば教育でも、タブレットを配るとか、塾代を助成すれば学力が上がるというものではありません。親御さんの懐を少しでも温めて家庭を安定させて、ちゃんとご飯を食べられるお家を増やして、学校の宿題をみられるような余裕のある働き方を増やす。遠回りかも知れませんが、子どもを育てる土壌を、それこそ「牛のよだれ」みたいにしっかりさせていく。それが政治の仕事だと思うのです。

■市長が法律破り

浅野　同感です。第一、橋下氏は現場を知らないし、現場に行かない。一昨年の集中豪雨でも大和川の現場に行きませんでした。一方で、大阪市の地域振興会が「大阪都」構想に反対したら、補助金をカットするなどと言い出す。こんな馬鹿なことがありますか。反対したらカットするというなら、何ものが言えないじゃないですか。民主主義も何もないですよ。

山中　本当にそうです。地域振興会の皆さんは、「大阪都」構想は街を壊す問題だから、自分たちの課題として賛成できないと判断されたわけでしょ。市長は違法の可能性があるなどとして、補助金を出せないと言っていますが、橋下氏に法律を語る資格があるでしょうか。たとえば昨年の夏、法定協議会のあり方をめぐって野党が一致して市議会を開くように求めました。開催請求されたら地方自治法に従って市長は開かないといけないのに、罰則がないのをいいことに開きませんでした。市長が法律を破っているのです。本当に許せません。

もし「大阪都」構想みたいなものが通って、住民の暮らしがずたずたになっても、責任取らないでしょう。絶対通すわけにはいきません。

共同の力が本当の改革の道を開く

――3月に「民意の声」と「えらいこっちゃの会」が共催された集会では自民党・民主系・共産党の3幹事長があいさつをして、パレードでは自民党ののぼりも、共産党ののぼりもはためくという歴史的な取り組みになりました。その後も「大阪市解体ノー」の共同はさらに広がっています。

浅野　いま私が必死になっているのは、5月10日(日)午後1時から、扇町公園で開く大集会です。維新の会は住民投票に向けて4億のお金を使うというでしょ。私たちは3月よりも、もっと大きな集会を開いて、メディアにもアピールしたいと思っています。「これだけの人間が反対している。それは何でやねん」と考えてもらえるきっかけにしたいのです。

それにマスコミの責任もあります。「橋下徹」が「改革者」だというイメージはマスコミがつくった虚像ですから、マスコミに壊してほしい。しかしこの運動は、ほんまにしんどいことなのですよ。私は仕事放り出してやっていますし(笑い)。

■枠組み乗り越え

山中　そこはぜひ、もうひと肌脱いでいただいて。この間、市議会の中では橋下市長の無茶苦茶なやり方に対して野党の共同が徐々に発展してきました。大阪市では長い間、「共産党を除く」という枠組みが続いてきましたが、いまでは共産党も含めて相談するのが当たり前となっています。

でも、一緒に運動するのはなかなか簡単ではないと思っていたところに、浅野さんが3月の集会を企画して、私たちにも声を掛けてくださいました。私は本当にありがたいと思っています。「民意の声」「えらいこっちゃの会」が集会を開いて、そこにみんな出てこいと言っていただけることがすごく励みになっているし、運動している皆さんも元気になりますよね。自分たちだけではなくて、いろんな人たちが頑張っていると実感できます。

■「一体の力」こそ

浅野　橋下氏は住民投票で否決されれば自分は政界を去ると言っていますね。もし、それで辞めなかったら、私は「お前、やめる言うたやないか。約束守れ」と「やめろコール」もやります。とことんやります。

私は議会のことはプロである議員の皆さんに任せます。議員さんができない部分をやりたいのです。自民党の皆さんも知っているし、今回もこうして山中議員と一緒に話しています。民主党や公明党の人たちにも働き掛けています。5月10日も大きく盛り上げて、「一体の力」を見せたいのです。あと、山中さんにお願いしたいことがあります。

山中　どんなことでしょう。

浅野　橋下氏のウソを暴くことはもちろん大事ですが、野党4会派で「大阪の正しい改革をやります」、そう言ってほしいのです。みんな、改革を待っているのです。

山中　そうですね。だからこれまで橋下氏が支持を集めてきました。

浅野　でも、うその「改革」は駄目。彼のは改革でなく、「壊し」ですから。そうではなくて、「本当の改革」をやりますと。

山中　その改革のために、しっかり民主的に議論しましょうということですね。

浅野　そうです、そうです。

■発展させる芽が

山中　私たちは「大阪大好き/壊すのではなく/よりよい街にチェンジ」と言ってきましたが、いま「壊すより/活かして変えよう/大阪市」というふうに言い始めています。野党4会派もこの間集まって議論する中で、「自分たちも変えることを言わないといけないね」という話も出てきています。5月17日に「大阪都」構想を食い止めたら、これまでの本当に苦しかった経験を無駄にしないで、一緒に変えていく流れに発展させる芽も出てきているなと思っています。

浅野　その声をぜひ上げてください。

山中　住民投票の公報でも「変えるのは制度ではなく中身だ」というスローガンが反対派全体の意見としてまとまりました。いままでの大阪市では駄目だということが、共通認識になっています。ではどう変えるのか。橋下氏のように、壊す、切断するのではなくて、どう治療していくのかという議論が始まると思います。5月10日の集会にはみんなで行って元気になって、それぞれの党や会派、団体、個人の皆さんが得手を生かして、「大阪市廃止ノー」の声を爆発させて、住民投票で必ず勝利しましょう。

浅野　一緒に頑張りましょう。